

グリーンピース（実えんどう）の需給動向

調査情報部

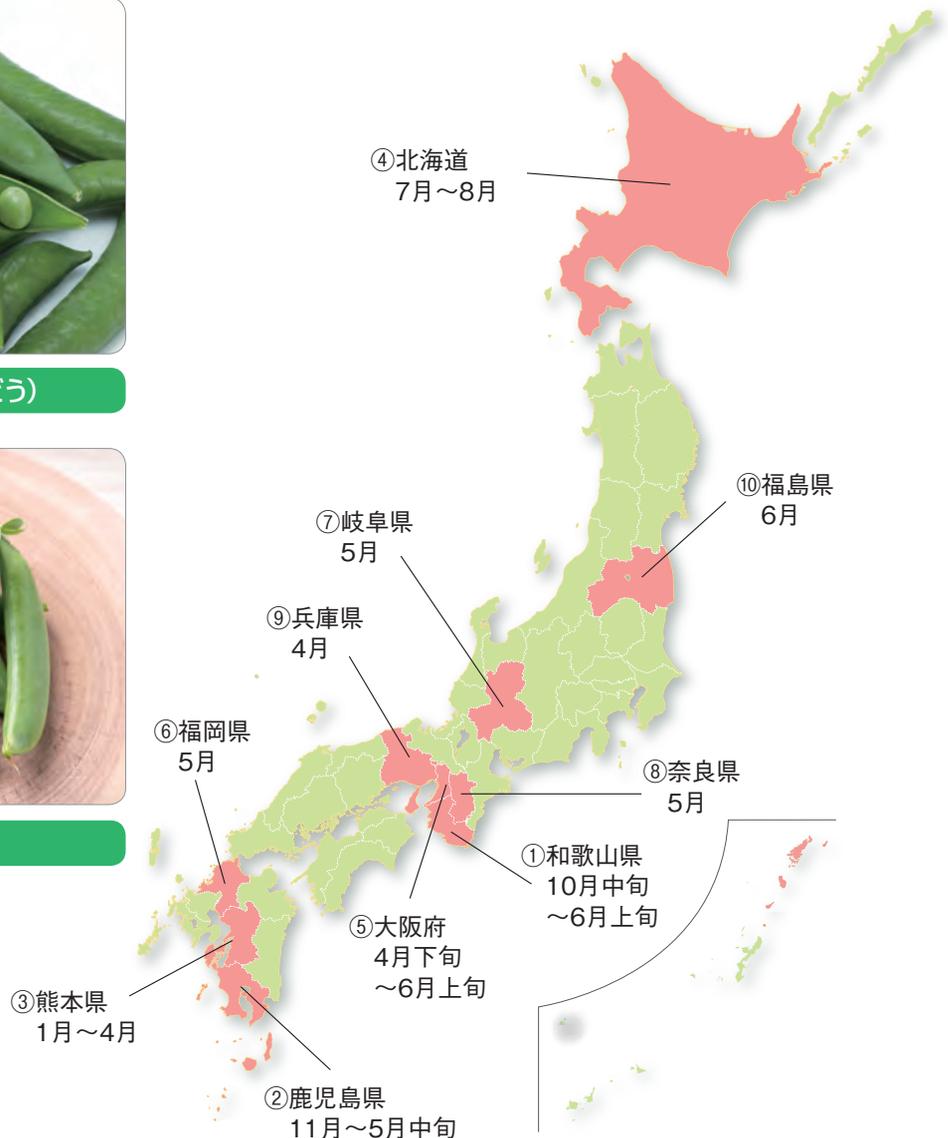
主要産地（グリーンピース）



グリーンピース（実えんどう）



スナップえんどう



資料：農林水産省「令和2年産野菜生産出荷統計」

注：図中の番号は収穫量の多い順番、期間は主な出荷期間を表している。

えんどうは、若いさやごと食べるさやえんどう、未成熟の中の実を食べるグリーンピース（実えんどう）に大きく分けられる。また、完熟の実を豆大福などに用いるえんどう豆があり、えんどうは成熟するまで各過程で味わうことができる作物である。

グリーンピースは、ほとんどが缶詰や冷凍食品に加工されており、一年中手に入るが、生のものの風味は格別で4～6月が旬である。

関東地方ではグリーンピースとして親しまれているが、関西地方ではうすいえんどうが春を告げる食材として親しまれている。

近年では、豆がグリーンピースほどの大きさになってもさやごと食べられるスナップえんどうが開発され、日本でも昭和50年代から流通している。えんどうを発芽させた若い茎葉を食べるものを豆苗という。

作付面積・出荷量・単収の推移

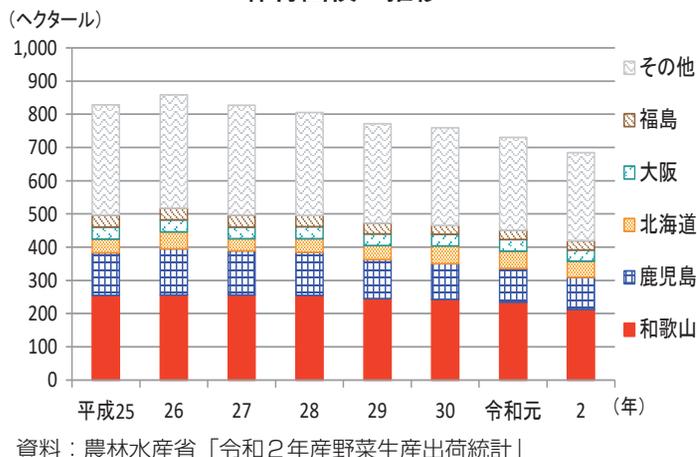
令和2年の作付面積は、685ヘクタール（前年比93.7%）と、前年よりかなりの程度減少した。

上位5道府県では、

- ・和歌山県 213ヘクタール（同 91.0%）
- ・鹿児島県 96ヘクタール（同 94.1%）
- ・北海道 49ヘクタール（同 94.2%）
- ・大阪府 34ヘクタール（同 97.1%）
- ・福島県 27ヘクタール（同 96.4%）

となっている。

作付面積の推移



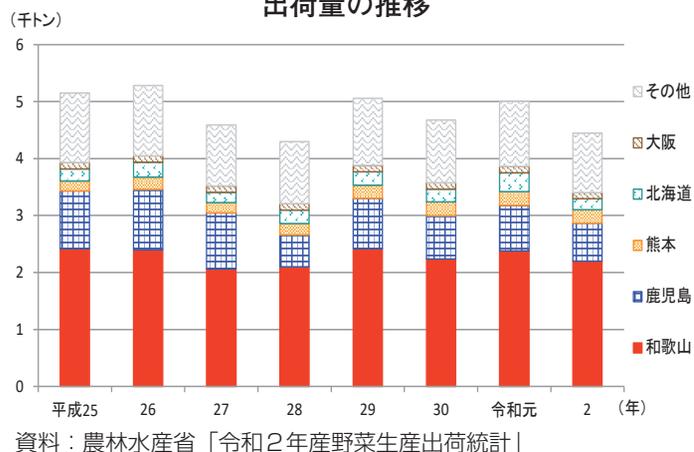
令和2年の出荷量は、4450トン（前年比89.0%）と、前年よりかなり大きく減少した。

上位5道県では、

- ・和歌山県 2200トン（同 92.4%）
- ・鹿児島県 668トン（同 83.6%）
- ・熊本県 233トン（同 96.7%）
- ・北海道 194トン（同 59.1%）
- ・大阪府 107トン（同 93.9%）

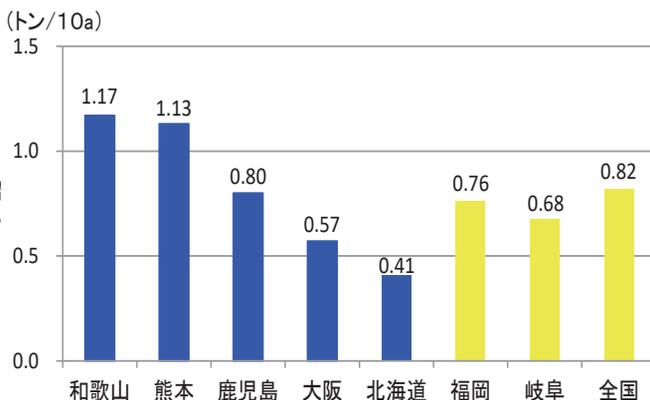
となっている。

出荷量の推移



出荷量上位5道府県について、10アール当たりの収量を見ると、和歌山県の1.17トンが最も多く、次いで熊本県の1.13トン、鹿児島県の0.80トンと続いている。その他の県で多いのは、福岡県の0.76トン、岐阜県の0.68トンであり、全国平均は0.82トンとなっている。

令和2年の主産地の単収



資料：農林水産省「令和2年産野菜生産出荷統計」

注：黄色は、出荷量上位5道府県以外で単収が多い2県および全国平均。

作付けされている主な品種等

主に関西地域で流通、消費されているうすいえんどうは、明治時代に米国から入ってきたグリーンピースが、栽培条件が適していた

大阪府羽曳野市碓井地区に導入されたことが名前の由来となっている。

都道府県名	主な品種
和歌山県	紀州うすい、紀の輝、矢田早生うすい
鹿児島県	スーパーグリーン、まめこぞう、南海緑
大阪府	ウスイエンドウ
福島県	久留米豊、白虎うすい

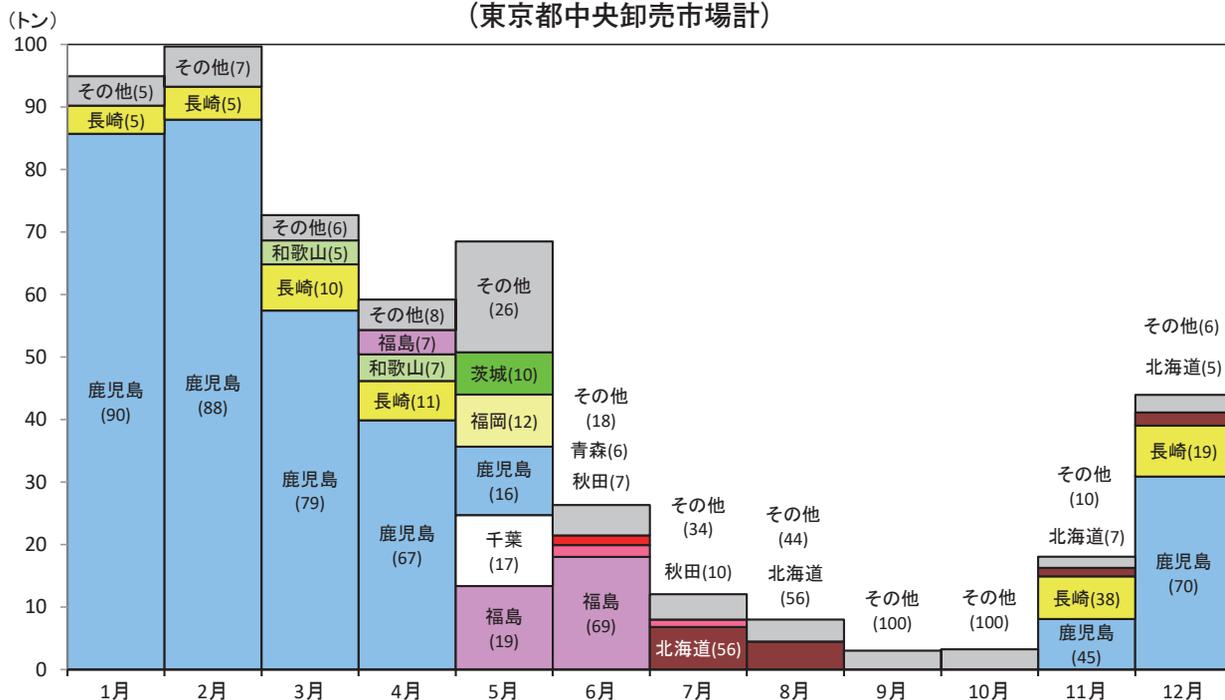
資料：関係者聞き取りにより農畜産業振興機構作成

東京都・大阪中央卸売市場における月別県別入荷実績

東京都中央卸売市場の月別入荷実績（令和2年）を見ると、11月から鹿児島県の入荷が始まり、2月がピークとなる。5月か

ら8月にかけては福島県、北海道からも入荷する。

令和2年 グリーンピースの月別入荷実績
(東京都中央卸売市場計)



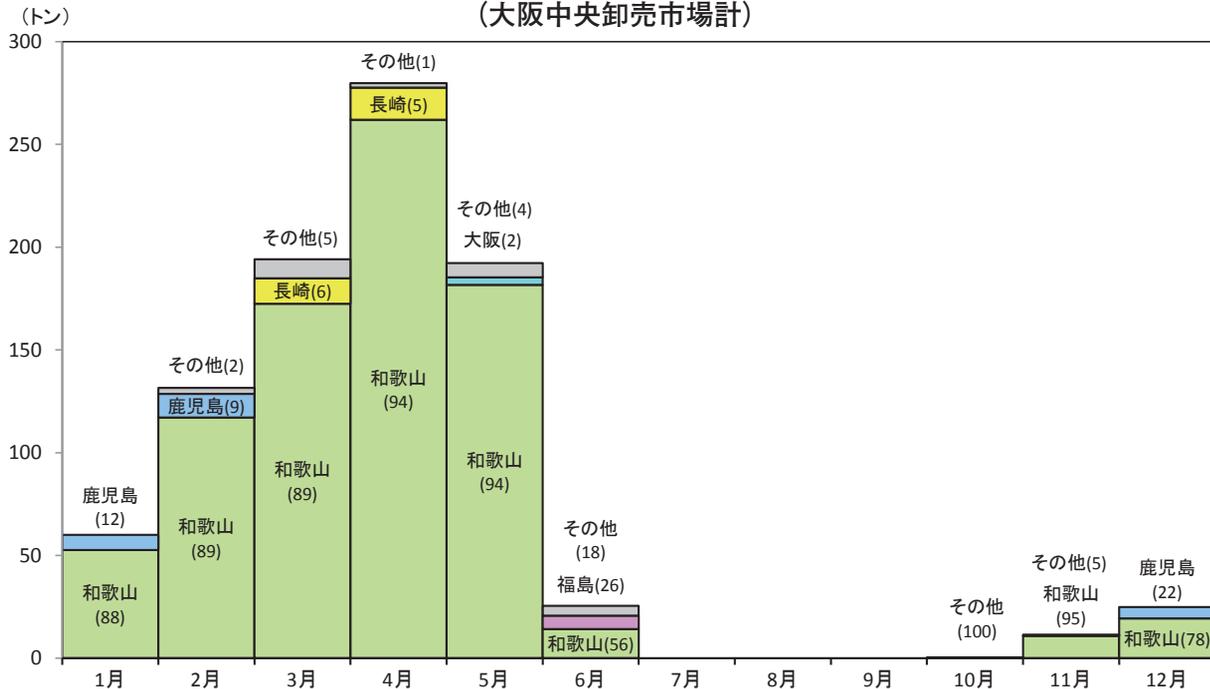
資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：令和2年東京都中央卸売市場年報）

注：（）内の数値は、月別入荷量全体に占める割合（％）である。

大阪中央卸売市場の月別入荷実績（令和2年）を見ると、主産地である和歌山県からの入荷が11月から増え始め6月まで続く。3

月から5月にかけては、数量は少ないが長崎県や大阪府からの入荷がみられる。

令和2年 グリーンピースの月別入荷実績
(大阪中央卸売市場計)



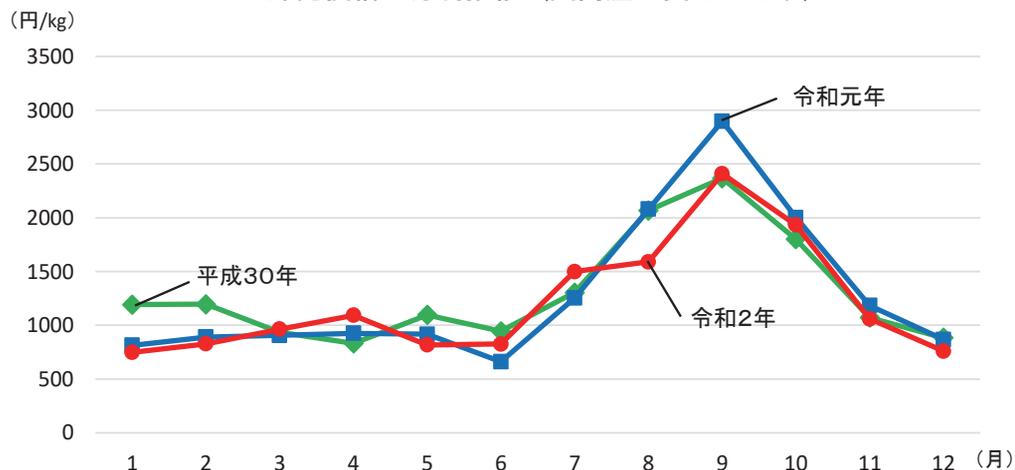
資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：令和2年大阪市・大阪府中央卸売市場年報）
注：（）内の数値は、月別入荷量全体に占める割合（%）である。

東京都中央卸売市場における価格の推移

東京都中央卸売市場における国内産実えんどうの価格（令和2年）は、1キログラム当たり749～2409円（年平均889円）の幅で

推移している。7月以降は数量が激減し、卸売価格は高くなる傾向にある。

卸売価格の月別推移（国内産：実えんどう）



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：東京都中央卸売市場「市場月報」）